保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人　大阪重症心身障害児者を支える会
施設名	あゆむ保育園
報告者（役職）	田中　容子（園長）
住所・連絡先	大阪市阿倍野区西田辺町２-１０-８
	☎　　０６-６６９１-２８００ E-mail　ayumu@sasaeru.or.jp

○タイトル（保育計画）

「遊んで」「読んで」元気に“あゆむ“！

○主な助成備品

肋木　　間仕切り　絵本

１．保育計画策定の目的

『しっかりとお腹を空かせてよく食べぐっすり眠る』という、子どもの成長に必要な生活を送る事が出来るように、午前保育で体をしっかりと動かし元気な体を作りたいと考えています。外出できる日には近隣の公園や（食育や自然に関心を持つための）貸農園である「シェア畑」に出かけています。ただ、天候や子どもの体調に左右され、外出できない日には狭い園庭で遊ばざるを得ません。

子ども達の一日の流れの中でも、保育士とじっくりと遊びたい時間と体をしっかりと動かしたい時間帯があります。園庭で十分な運動を確保し難く、室内で安全に楽しむことが出来る運動遊びを行いたいと開園当初から考えていました。昨年は室内ではブロックやままごとなどの玩具に加え、段ボール箱を重ね貼りした、簡易的な滑り板を保育士が作り遊んでいました。０・１・２歳児が一緒に遊ぶことが多く、それぞれの年齢に合った遊びを提供できる遊具が欲しいと考え今回の応募に至りました。

保育園の室内は、せり出しの扉などで仕切る事が出来る設計にしましたが、子どもの遊びに応じて自由な広さで仕切る事は出来ません。絵本をじっくり読む事やままごとを楽しんだりするには、大きな部屋では他の活動的な子どもの遊びと混在し、落ち着いて楽しむことが出来ませんでした。０・１歳児の低年齢児は保育士と一緒にゆったりと遊びたい欲求が大きい年齢ですので、『安心できる大人とゆったりと関わることが出来る生活・環境を大切にしたい』との思いと、『友達と体を動かし遊びたい』子どもとの生活の折り合いも考え、移動できる間仕切りでそれぞれの子どもが満足できる空間を提供したいと考えま

した。今回助成していただいた木の間仕切りは手触りも良く、重量感があり、安心して室内で使用することが出来るものです。室内での遊びが広がりました。

２．具体的な実施内容

肋木は室内にいつもあります。日ごろは横に倒して高さ 60 センチほどのトンネルの様です。周りからは子どもの様子が見え、安全を確保することが出来ます。滑り板を一番上の面に置き片付けますので、子どもの目線からは隠れ家のように感じます。いつも誰かが中に入り、車の運転手になったり、お店屋さんになったりしています。周りが見える環境でも柵があるだけで「自分の空間」が確保できるようで子どもたちには精神的に落ち着く空間となっています。背が伸びてくると以前より低い姿勢を取らないと頭をうってしまいます。慣れない間は「ゴン！」という音と共に「〇〇ちゃん大丈夫？」と保育士が声を掛けることがあるのですが、しばらくすると慣れて上手にかがんで遊ぶようになってきます。頭を打つ痛みよりも中で遊ぶ楽しさが勝るようです。

外出出来ない時間には、トンネルがジャングルジムや滑り台に変身します。寝かしていた四角柱を立て、滑り板を好きな高さの横棒に引っ掛けるとジャングルジムと滑り台の完成です。慣れると０歳児も１歳児もすいすいと登りますので、必ず保育士が横に付きます。反対から登ってくる子どもや、先を競って滑りますので渋滞が起こる事もありますが、順番を守る事や待つ事など必要な社会的ルールを覚える場でもあります。低年齢児でも保育士に促されながらしばらく遊び込むと、ルールを守り楽しむことが出来るようになってきます。滑り台の先にはマットをつなげて小山を作ったりジャンプ台を作ったりと室内で遊びを設定し、楽しい道が続きます。滑ったり跳んだり何度も何度も繰り返し、満足するまで遊んでいます。

間仕切り板は遊びの中で絵本をゆっくり読むスペースになったり、ままごとのお家の壁になったりと活躍しますが、電子ピアノの足元に置き、子どもの進入禁止の目印にもなっ

ています。午睡時の間仕切りにもなり、「ここからは寝る場所だから静かにね」とそっと歩いて午睡ルームに入ります。目印が無いと理解しにくい年齢ですが、子どもには視界を遮る高さで、保育士からは上から中の様子が見える高さで、安全を確保しながら開放的な保育室を分けることが出来るようになりました。

３．その成果と評価

安定感のあるしっかりとした肋木と間仕切りは、性能・安全ともに満足できる物でした。手触りも良く木の感触や色は保育室にもしっくりと溶け込みます。一点一点手作りの品は丁寧に作られており、子ども達が全力で遊んでも壊れることが無い安心感があります。見学に来られた方は「こんなに新しい肋木は初めて見ました。どの園で見てもあめ色になっています」と話しておられます。あゆむ保育園とともに歴史を重ねることが出来る安心感です。現在では子どもにとって室内遊びでは欠かせない道具となっています。

安全を第一に考えた保育室では子どもの隠れ家など楽しみは後から加える必要がありました。また、子どもの月齢や成長により、遊びは変わっていきます。単純ですがしっかりとした作りの遊具や備品は、保育室の中で応用することが出来、色々な場面で活躍しています。子どもの遊びにも楽しみを増やす事が出来ています。その時々の子どもの月齢や好みに合った使い方を工夫できる遊具は、小規模保育園の力強い味方となっています。

４．今後の課題と展望

小規模保育園Ａ型に準じた事業所内保育園という事で、お預かりした子どもたちの成長をどのように促すか、保育士がどのように関わるか、日々工夫の毎日です。環境を整えることで経験する内容や回数は大きく変わり、身体的・社会的に子どもの成長を支える私たちの責任は重大です。限られた室内や地域環境をどのように活かし過ごすのか、子どもの成長に合った楽しくやる気の出る環境を整えていきたいと模索しています。今回助成していただきました備品を活用しながら、進化する保育園でありたいと考えています。

コロナが収束すれば、親子で遊ぶ行事を増やしていく事が出来ると楽しみにしています。その際には今回助成いただいた設備を活かしながら個々と大切に関わり、子どもも保護者も職員にも居心地の良い場を作るべく、チャレンジしていきます。

以上